

サンゴの天敵とサンゴに起きている危機的状況

褐虫藻と共生して、いろいろな生物が豊かに暮らせる環境をつくるサンゴですが、平和に暮らせるばかりではありません、サンゴにも天敵が存在するのです。

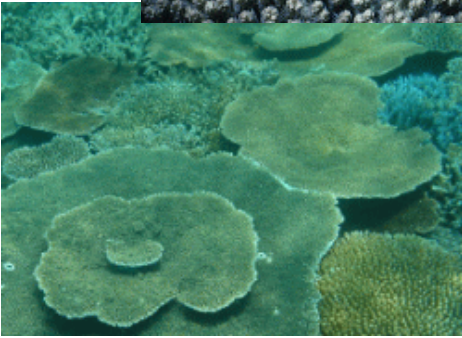
意外なことですがサンゴはサンゴ同士でも縄張り争いをします。例えば、毒は弱いが繁殖力の強い種類のサンゴが、毒が強いが繁殖力の弱い種類のサンゴを囲むように生育していることがあります。

これは、毒の弱いサンゴがどんどん領地を広げていくものの、戦えば負ける毒の強いサンゴには手を出せないという、縄張り争いの結果なのです。

また太陽光を必要とする造礁サンゴは、他のサンゴの上に群体を広げていくこともあります。下になったサンゴは太陽光がさえぎられてしまうので、やがて死んでいきます。



写真右 / 中央のサンゴの触手によって成長を阻害されたテーブルサンゴ。



写真左 / 上のサンゴによって、下のサンゴは太陽光が遮断されている

台風もサンゴにとっては脅威です。熱帯や亜熱帯地方の台風は本土とは比較にならない暴風雨をよびます。そのうねりは、ビルのガラスを割り、車をひっくり返すほどです。

海中もその影響から免れることはできません。巨大なサンゴ礁が波に割られたり、倒されたり、砂浜に打ち上げられたりすることもしばしばです。

また、硬いサンゴですがそれを食べる動物もいます。たとえばブダイは、鋭い歯で表面をがりがり削って、サンゴを食べます。

しかし、何より深刻な被害はオニヒトデによります。オニヒトデの食料はサンゴだけです。サンゴの上にまたがって、胃袋をかぶせ、消化酵素でサンゴの骨格以外の部分を溶かして吸収してしまいます。

直接サンゴを消化されては、丈夫な骨格も役に立ちません。オニヒトデの去った後には、白い骨格だけが残されていきます。



写真右 / サンゴを食べるイロブダイと丈夫な歯



写真左 / サンゴを食べる(摂食)オニヒトデ

さらに深刻なのは、褐虫藻(ゾーザンテラ)の生命に関わる環境の変化です。

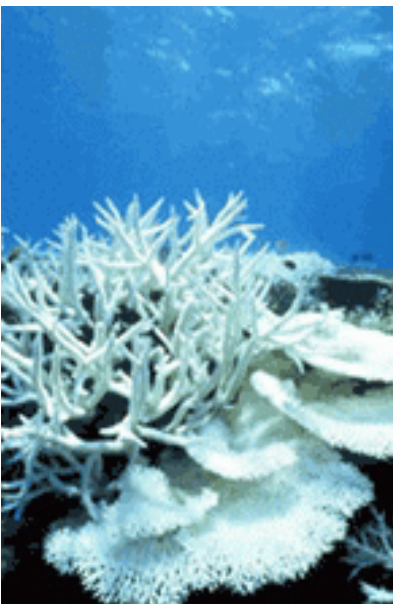
1998年夏、沖縄諸島の各地でサンゴの白化現象が進み、大きな被害が出ました。その原因は、海水温度の上昇でした。

一定以上の水温では褐虫藻が生きていけなくなるため、おもな栄養補給元を失うことでサンゴ自身が死んでしまうのです。そして、後には白い骨格だけが残ります。

サンゴの白化現象は海水温度の変化のほかに、さまざまな要因が考えられます。たとえば、海流の変化、海水濃度の変化、ミネラル分の不足などです。

他にも人間がおこなう沿岸開発、生物資源の乱獲、ダイナマイト漁などの破壊的漁法、海洋汚染、森林伐開や土地開発に起因する表土流出などが影響しています。

現在、世界のサンゴ礁の58%がこれらの被害に脅かされているそうです。左の写真をご覧ください、サンゴの悲鳴が聞こえてくるようです。



写真上 / 白化した瀕死のサンゴ。